

平成28年度 極楽苑・香流川・西山 介護事業報告

1. 事業の実施状況

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

平成29年3月31日現在

介護事業全体

- ① 地域包括ケアシステムの一部を担うべく、極楽苑において4月より「高齢者いきいき相談室」を開設いたしました。この一年間で相談件数が増えており、いきいき支援センターとの連携を行いながら、地域において身近な相談窓口として役割を果たすことができました。次のステップとして、「認知症カフェ」の早期開設に向け準備を進めました。社会福祉法人として原点に立ち返り、地域貢献できるよう努力いたしました。
- ② 人材確保と流出防止のため、就職フェアや学校訪問、ホームページなど採用活動の強化、また、総務を中心とした新人教育や内部研修にも力を入れ、職員一人ひとりのスキルアップを支援することができました。人材育成顧問アドバイザーの活用やストレスチェック制度の導入を実施しました。個別面談を多く取り入れ、メンタル的な問題や解決に向け、早期対応を行いました。
- ③ 防災については、委員会を細分化して行うことで、実際の介護職員に近い立場から意見が出るよう計画いたしました。3拠点の事業所で各々が計画した防災・消火訓練を年2回実施いたしました。また、一部未実施であった極楽苑と香流川での家具や備品の転倒防止対策についても行うことができました。
- ④ 毎年の取り組みとしている保育園児との世代間交流も好評を博し、高齢者の認知症予防、園児の情操教育などにもつながる大切な行事となりました。他、季節の行事としては、夏祭りや敬老会、外出、デイサービスでの文化祭など季節の節目を感じていただけるよう内容に力を入れて取り組みました。
- ⑤ 食事については、食材費高騰の煽りを受けつつも工夫をすることで、予算を超過することなく「季節を感じられる行事食」や「工夫を凝らしたソフト食」など提供することができました。

特別養護老人ホーム 極楽苑

平均要介護度:3.69
性別の割合: 26人(男) 101人(女)

- ① 看取りケア体制については、定期的な委員会を開催し体制づくりに努めました。8月～9月にかけて、初めてとなる看取りケアを実施いたしました。年度内では2名の看取りを終え、会議等で反省や改善点など振り返りを行いながら、マニュアルの整備を行いました。
- ② 北1丁目のトイレ改修は一時中止となり実施できませんでしたが、プライバシーに配慮したケアについての検討を継続して行いました。
- ③ 入居に関しては、医療依存度の高い方の申込みが増え、看護師と連携をしながら入居前調査を行いました。介護報酬加算の関係で、要介護4・5の申込者を中心に入居を進めてきましたが、下半期は認知症重度の方に対しても入居のご案内ができたため、より効率よく入居を進めることができました。
- ④ ケアの質向上を目指し、統一したケアを行うようケア向上委員会を設置して、内部研修を行ってきましたが、人員体制の関係から研修実施の主体を総務部へ移行いたしました。ケア向上委員は、ユニット内でケアの提案や検討、指導、確認を行い、新人職員の教育に関しては、情報が共有できるよう、指導者を少人数に限定して指導に当たりました。

地域密着型特別養護老人ホーム 香流川

平均要介護度:4.03 性別の割合: 6人(男) 14人(女)

- ① 質の高いケアの提供のためユニット会議や新人指導の場面で、24時間シフトや個別ケアについて意見を出し合うようにいたしました。人員体制上、スタッフ全員が意識的に取り組むことが難しく、課題も残りました。
- ② 6月に看取り勉強会を実施いたしました。人員体制上、看取りケアを実施することは出来ませんでしたが、引き続き体制作りを目指してまいります。
- ③ 認知症・身体拘束・虐待防止の勉強会を行い知識・技術向上に努めました。
- ④ 入居者の身体状況が大きく低下しているため、体操などを動かすレクリエーションを行うことが難しくなり、定期的なクラブ開催は料理のみとなりました。外出支援については、近隣の飲食店や喫茶店への外食、日用品や衣類の買い物などニーズに合わせた支援を計画的に行うことができました。

ショートステイ 極楽苑

日平均:21.3人 平均要介護度:2.66
緊急避難:14日(1人)

- ① レクリエーションでは、園芸や合同夏祭り、ボランティアによる演奏会、保育園児との定期交流等、様々な企画を計画・実施し、利用者や家族の好評を得ることができました。
- ② アセスメントやモニタリングを行うことで個別機能訓練内容を充実させ、利用者の機能向上に努めました。
- ③ 安心や信頼を得るために、利用者や家族にスタッフの名前と顔を覚えていただけるよう努めました。会議では、危険予測や介護技術向上のための事例検討を行い、また受付のスタッフは、接遇として丁寧な対応を心掛けるよう話し合いました。
- ④ 相談員不在時でも宿泊の延長や緊急受入れを柔軟に行いました。送迎や食事の調整も介護スタッフが行うことで、迅速に対応できました。

デイサービスセンター 極楽苑

日平均:2.1人 平均要介護度:2.16

- ① 新たにスタートした総合事業では、途中から移行された方や新規でサービスを開始された方でも、丁寧に説明を行い混乱なく利用いただくことができました。
- ② レクリエーションでは、ボランティア週間を設け、利用者に万遍なく公演を観ていただけるよう工夫いたしました。リハビリは、効率よく効果的な機能訓練ができるよう、動線の確認や快適な空間作りを行いました。

極楽苑 訪問介護事業所

- ① 今年度から総合事業へ移行することにより、契約が終了した利用者があったため、近隣の在宅支援事業所とも連携し、情報収集や参加検討を行いました。
- ② 人員体制が整わなかったこともあり、利用者へのモニタリングは継続できませんでした。その分、スタッフとの情報共有や他事業所からの情報収集を念入りに行い、迅速な対応を心がけました。会議が開催できない時には、資料を配布し共有事項の確認、申し送りの徹底を行ったため、連絡によるミスなど防ぐことができました。

極楽苑 居宅介護支援事業所

予防給付数:300件 介護給付数:1232件(延べ)

- ① 高齢者いきいき相談室を開設して気軽に相談できる窓口を目指し、随時相談を受け付けました。地域行事などへも積極的に参加し、地域に根ざしたの事業所となれるよう取り組みました。
- ② より質の高いケアマネジメントを目指し、適宜内部研修を行いました。多様なニーズに応えられるよう、地域資源の収集など行い、介護保険外の情報も提供いたしました。

グループホーム 香流川

平均要介護度:3.05

- ① 8月に初めて看取りケアを行いました。提携先の訪問看護ステーションと連携し、チームケアに努めて行ったため、多くのスタッフの貴重な経験となりました。情報共有・事務手続き・メンタルケアなど課題も残りました。
- ② 体操・音楽・創作・園芸・料理・喫茶など季節に応じたレクリエーションを実施することができました。人員不足もあり、遠方への外出はできませんでしたが、近隣の飲食店に行くなど、できる限りの支援を行いました。

小規模多機能ホーム 香流川

平均要介護度:2.52

- ① 利用者の情報収集は、ケアマネジャーだけでなく介護スタッフも行い、様々な視点から利用者のニーズを探り、きめ細やかなサービス提供に努めました。
- ② 訪問中心で利用する方が着実に増えました。自宅で安心して暮らしていただくため、支援内容について積極的にミーティングを行いました。偏りのないサービス量の調整や早朝や夕方の訪問ニーズに対応する体制作りが課題となりました。
- ③ 認知症カフェや廃品回収・定期的な町内清掃など、できる限り地域行事に参加いたしました。

高齢者住宅 西山

稼働率(60床):48.3%

- ① クリスマス会や節分会など、季節を感じていただけるようなイベントを開催いたしました。なかでも毎年行っている保育園との交流会は、楽しみにされていらっしゃる方も多くなり、大変好評でした。
- ② 「季節に合った行事食」や「手作りおやつ」が提供できるよう、献立や調理の工夫をいたしました。特におやつは今年度から開始しており、「喫茶店のようだ」と見た目・味ともに好評を得ました。今後は、ソフト食の内容を充実することが課題となりました。

定期巡回・随時対応型訪問介護看護ステーション 西山

平均要介護度:2.5

- ① ケアプランに沿った訪問サービスを24時間提供し、随時の訪問にも力を入れることで、西山住宅での生活ができる限り継続できるよう支援いたしました。
- ② 「介護・医療連携推進会議」を年3回開催し、家族や民生委員など参加者の意見を運営に反映できるよう配慮いたしました。また、ケアマネジャーと連携を密にすることで、看取りケアなど、対応困難なケースでも柔軟に受け入れできるよう努めました。